

## 産経新聞 2022年5月13日掲載

※著作権取得済み 無断転載・複写不可

知的障害者らの一般就労を目的とした企業向けの区分貸農園が11月に大東市内にオープンすることになり、事業会社のエスプールプラス（東京都）と同市が連携協定を結んだ。市は求人や広報活動などで就労に協力する。同社の貸農園は枚方市などに続いて府内4カ所目、全国では35カ所目となる。



連携協定を交わした東坂浩一市長（左）とエスプールプラスの和田一紀社長  
＝大東市役所

# 知的障害者ら一般就労

## 11月 大東に企業向け貸農園

同社によると、貸農園は同市深野北2丁目の約1万平方メートルにビニールハウスを整備。同社と契約する企業が社員として雇用する障害者が養液栽培で野菜をつく

る。区分貸しは25社との契約を見込んでおり、計75人の就労を目指す。通勤には近隣駅からバスを運行。収穫した野菜は各社が社内販売などで活用する。

障害者雇用促進法では規模に応じて企業に一定割合の障害者雇用が義務付けられているが、身体障害者に比べ知的障害者は働ける場が少なく、経済的自立

が大きな課題となっていた。

同社は平成22年から知的障害者らが働き、企業が賃金を支払うソーシャルファーム「わーくはぴねす農園」を運営し、全国で2500人以上の雇用を創出してきた。福祉就業ではなく一般就労となるため、週5日30時間の就労で月十数万円の収入が見込まれる。昨秋にオープンした枚方市の農園では現在、約90人が働いている。

記者会見で和田一紀社長は「豊かな人生につながる一般就労が障害者もできると少しずつ理解されてきた」と話し、東坂浩一市長は「だれもが安心して暮らせるまちづくりの大きな一歩として応援したい」と語った。